

第3章 プロモーション

3-1. 東京プロモーション

(1)目的

- ・ 東京プロモーションは、沖縄北部での周遊・消費を促すため、「やんばる」の知名度向上と12市町村が連携したPRを実証することを主な目的として参加した。
- ・ 今年度各エリアで取り組んだモニターツアーの商品造成についてアドバイスをもらうため、各エリア代表と共に旅行社訪問を行った。

(2)実施方法

- ・ 東京スカイツリーへ訪れた方を対象とした「Beautiful NIPPON 全国観光PRコーナー」に参加し、やんばる観光を紹介した。
- ・ 東京都内に本社企画部門がある旅行社を訪問し、各エリアで取り組んだモニターツアーについてプレゼンを行った。

1)東京プロモーション「Beautiful NIPPON 全国観光PRコーナー」

①目的

- ・ 日本一早い桜の開花のPRをメインとして、やんばる地域の魅力発信、観光客誘客を目的とし、併せて沖縄国際洋蘭博2016もPRするために実施した。
- ・ 12市町村が一同に「やんばる」をPRする機会の創出を目的に、各エリアから代表が参加し、美ら島財団と共同で取り組んだ。

②実施概要

- ・ 出展は、東京スカイツリー5F出口にある「Beautiful NIPPON 全国観光PRコーナー」実施した。
- ・ さくら祭りをはじめとする12市町村の観光パンフレットを配布し、やんばるを紹介した。また、大型の地図を使い説明を行った。
- ・ やんばるの知名度に関するアンケート調査も行い、回答者には沖縄県本部町八重岳の琉球寒緋桜の花の香りをモデルにしたバスクリンを配布するなど「やんばる」のPRを図った。

表 東京プロモーションの概要

名称	東京スカイツリーオフィシャルパートナー「I LOVE ニッポン」プロジェクト 「春先へひとつ飛び！」プロジェクト 日本一早い桜の開花をPR in 東京スカイツリー
主催	一般社団法人沖縄美ら島財団
場所	東京スカイツリー5階 『Beautiful NIPPON』全国観光PRコーナー
日時	平成28年1月4日(月)10:00～18:00 ～平成28年1月7日(木)10:00～18:00 計4日間
内容	名護市・今帰仁村・本部町のさくら祭り、やんばる地域全体、沖縄国際洋蘭博の紹介 アンケート調査
対象者	東京スカイツリー及び東京ソラマチ来場者



出展状況 パンフレット配布



出展状況 アンケート回答風景

2) 旅行社訪問

① 目的

- ・ 今年度、エリア別で取り組んできた連携プロジェクトについて取り組み内容をプレゼンすることにより、旅行社に取り組みを認知してもらうとともに、課題等の意見を徴収することを目的として実施した。

② 実施概要

- ・ 東京都内にオフィスを構える下記表の3社を訪問し、エリア別連携プロジェクトのプレゼン、意見交換会を行った。

表 旅行社訪問の概要

名称	旅行社訪問
訪問先	東武トップツアーズ株式会社 株式会社 JTB 国内旅行企画 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社
日時	平成 28 年1月8日(金)
内容	エリア別連携プロジェクトのプレゼン、意見交換



旅行社プレゼン (株)JTB国内旅行企画



旅行社プレゼン 東武トップツアーズ(株)

(3)成果と課題

①事業の成果

- ・ 来場者数 4,953 人 (パンフレットを受け取った方とその同伴者)、アンケート回収数 463 件であった。
- ・ やんばる 12 市町村と沖縄美ら島財団が、連携して取り組む機会ができた。
- ・ 今回は出展コーナーへの訪問を目的とした方ではなく、通りすがりの人にアンケート調査を行えたことから、広く一般的な意見を聞くことができた。
- ・ やんばるといふ地域の認知度を把握することができた。美ら海水族館を訪れたことのある方が 57%と過半数を超えていた。
- ・ 各旅行社へ、広域的な取り組みをしていることをアピールすることができた。
- ・ 旅行社へのキャラバンは取り組みを知ってもらうために有効な手段であり、やんばる地域全体で実施したのはおそらく初めての試みであったため、旅行社も「やんばる」という広域圏での取り組みとして認識してもらう機会となった。
- ・ 各エリアの取り組み内容に応じて、課題となる意見が得られた。
- ・ 旅行社は今後、他社との差別化を図るための地域の隠れた素材を探しており、企画や提案があればぜひ情報交換をしていきたいという協力関係ができた。実際に、この後エリア別連携プロジェクトのモニターとして、東海岸エリアと南エリアに招聘することができた。
- ・ 旅行社からすると、地域がまとまって窓口を一本化していくことが望まれるとの要望もいただいた。

②今後の課題

- ・ 全エリア共通して窓口の一本化という課題があるので、それを検討していく必要がある。
- ・ 意見交換で得た情報を各エリアで落とし込み、どのように商品化していくかが今後の課題となってくる。
- ・ やんばるには、まだ観光地となっていない資源が多くあり、旅行社が販売しやすいよう、地域の素材を効果的に PR していかなければならない。
- ・ 着地型観光を発信していく方法を、やんばるといふ広域で一体的に取り組んでいく必要がある。
- ・ 旅行社・個人客それぞれに対し、どのように情報発信していくか、情報の発信先や内容についてのニーズ調査結果等とも照らし合わせながら検討していく必要がある。

3-2. スタンプラリーの実施

(1)目的

- ・ やんばる地域において観光客の周遊や消費促進を目的として、道の駅・農産物直売店 17 事業所に加え、ホテル 13 事業所を加えた 30 事業所にてスタンプラリーを実施した。

(2)実施概要

①開催概要

開催期間:平成 27 年 12 月 19 日(土)～平成 28 年2月 29 日(月)

実施方法:各店舗の特産品、やんばる地域のイチオシグルメを紹介した割引特典を付けるなど工夫を行い、グルメ情報が盛り込まれたスタンプラリー冊子を作製した。

各店舗及びダイレクトメール、レンタカー店舗、野球オープン戦等で配布をした。

応募方法:参加店舗に設置してあるスタンプ(得点制)で合計3点以上集め、投函する。

景品 :特賞(5点以上) ホテル宿泊券+特産品詰め合わせ 3 名分

A 賞(4点以上) ホテル食事券+特産品詰め合わせ 13 名分

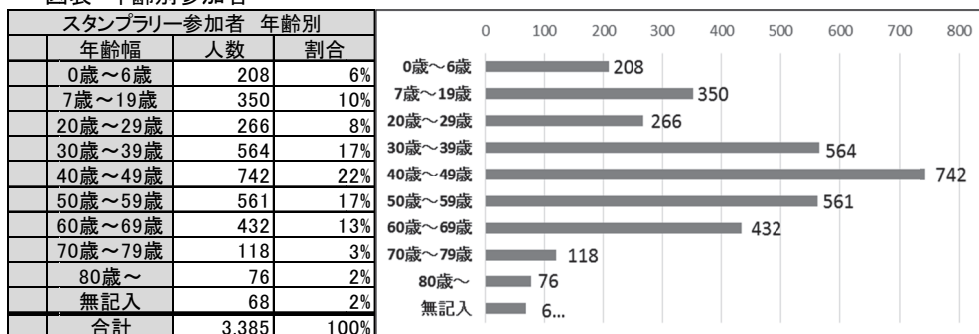
B 賞(3点以上) 特産品詰め合わせ 55 名分

※景品は冊子の広告費に代わる対価として各参加店舗から提供頂いた。

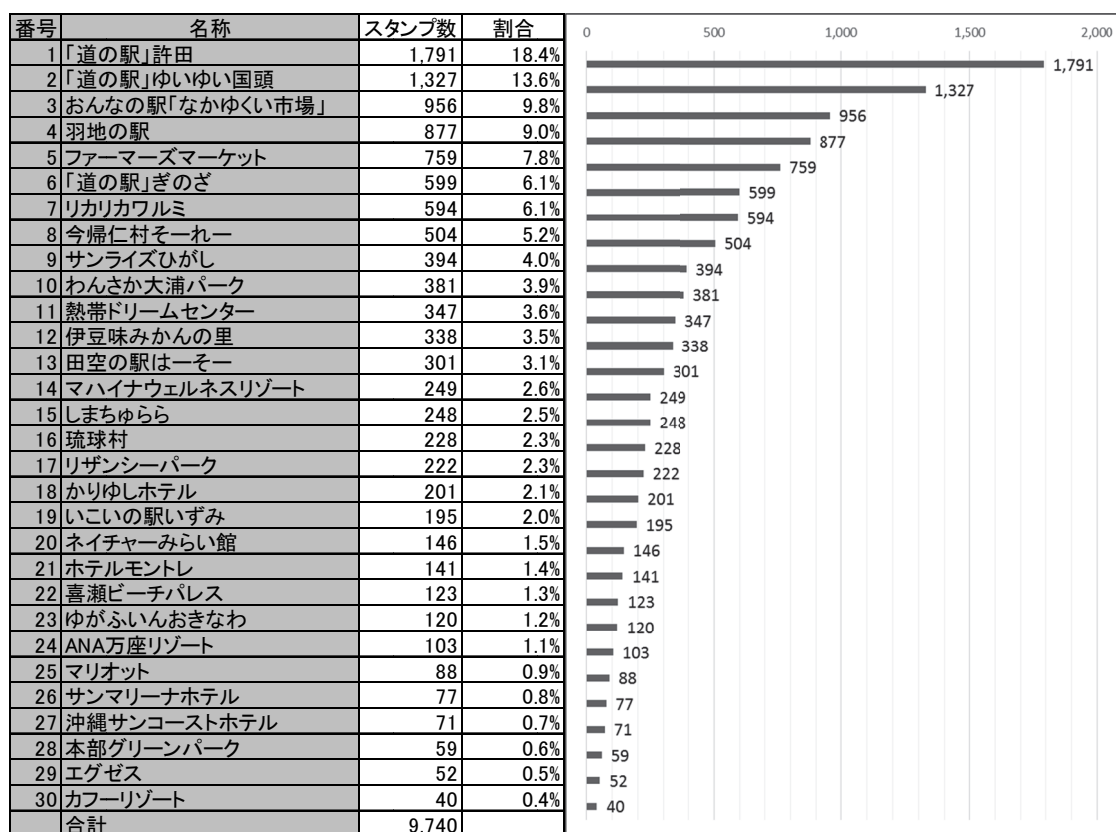
②スタンプラリー結果概要

- ・ 今年度の配布数は 56,750 枚、応募者数は 3,385 名となった。(応募率 約 6%)
- ・ 特に観光客が多く宿泊するホテルが参加したことで、冊子配布数が増えた。
- ・ 参加事業社では、道の駅許田、ゆいゆい国頭、おんなの駅、羽地の駅など農産物直売所などのスタンプは多く、人が周遊していることが分かるが、ホテルのスタンプはそれほど多くはなかった。
- ・ ホテルに宿泊されていた参加者では、リザンシーパークに泊まる参加者が多く、続いてかりゆしホテル、マハイナホテルと続いた。
- ・ 参加者は、県外が 69%、県内が 31%であった。
- ・ 参加者は都道府県別では、沖縄県が一番多く、次に東京、神奈川と来て、地方の中では関東地方の参加が沖縄の次に多い。
- ・ 1 人当たりの訪問箇所は、スタンプ押印数で数えると約 3～4 箇所であり、3 箇所以上回ったこととなる。

図表 年齢別参加者



図表 参加店舗別スタンプ数



③前年度との比較

- ・ 台紙配布数は前年度に比べ、2.6倍増の56,750枚配布となった。応募者は前年度に比べ1.5倍増の3,385名となった。応募者の内訳として、本土からの観光客は1.6倍増え、県民は1.2倍増えた。
- ・ 宿泊地域別については、北部全域でも前年比約2倍の839人が増え、特に恩納村では、2.77倍増の781名も増えた。唯一那覇の宿泊参加者が減少し、他地域は全て増加した。

図表 スタンプラリー比較 概要

	平成27年度	平成26年度	比較
台紙配布数	56,750枚	21,550枚	前年比2.6倍
応募者数	3,385名	2,340名	前年比1.5倍
参加店舗	30店舗	17店舗	前年比1.8倍

(3)成果と課題

①事業の成果

■参加者の増加

- ・ 今回ホテルと連携し、ホテル宿泊者に情報提供することで、周遊促進を図り、多くのホテル宿泊者を周遊させることが出来た。特に、恩納村宿泊者の参加人数が他と比べて多かったのは、ホテルに設置したためと考えられる。

■やんばるの知名度向上

- ・ 実施期間内に 56,750 部配布し、多くの方に手に取ってもらったため、やんばる全体及び参加店舗にとっても宣伝効果があり、認知度向上につながった。

■地域間交流人口の増加

- ・ ホテルと道の駅、農産直売所が連携をすることで、宿泊先と地域を結ぶことが出来、地域内で人を周遊させ、交流人口を増やすということが出来た。

②事業の課題

■参加店舗直接的メリットの創出

- ・ ホテルは出発点として、情報提供という位置付けなど役割分担を考える必要がある。

■自立運営の費用検討

- ・ 今後自立運営を検討するためには、ランニングコスト、手間の軽減や台紙の販売など検討し、参加店舗が負担にならない運営方法を検討する必要がある。

第4章 北部周遊状況分析

4-1. 調査の目的

本調査は、やんばる地域の着地型観光を推進する連携機能の形成に向け、観光客の動向を把握するために実施するものである。具体的には、観光客が北部地域を周遊する際、どの経路を辿っているのかについて把握し、周遊、滞在、消費促進を図るべく施策を講じるための基礎資料とすることを目的とする。

4-2. 調査概要

本調査は、沖縄県北部地域において、観光客の周遊観光の動向を把握するため、「混雑統計®」を用いた行動分析を実施した。

*「混雑統計®」データは、NTT ドコモが提供する「ドコモ地図ナビ」サービスの オート GPS 機能 利用者より、承諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTT ドコモが総体的かつ統計的に 加工を行ったデータ。位置情報は最短 5 分毎に測位される GPS データ（緯度経度情報）であり、性別・年齢等の個人を特定する情報は含まれない。

(1)調査の実施

本調査は、携帯電話の GPS 機能により取得した位置情報の動きを分析の対象としている。

(2)調査結果の分析

本調査は、沖縄県北部地域に訪れた観光客が「どの経路を主に周遊しているか」「目的地までの移動経路はどこか」等について分析するとともに、今後の周遊促進に係る課題の検討を行ったものである。調査には、「主要な経路上に設定したポイントを通過した人数」を集計した混雑統計データを用いて分析を行った。

本調査は、携帯電話の所有者の移動を計測した実数をベースに行うサンプル調査である。

調査は、名護市宿泊者と沖縄県外者(名護市に宿泊していない方)の区分で実施した。

■ 分析項目について

区分	内容
分析①	関所通過順番別人数(名護市宿泊者)(3ヵ月毎、1年毎)
分析②	関所通過順番別人数(沖縄県外者)(3ヵ月毎、1年毎)※宿泊を伴わない北部来訪者
分析③	メッシュ別立寄り者人数(250m メッシュ)(名護市宿泊者)(3ヵ月毎、1年毎)
分析④	メッシュ別立寄り者人数(250m メッシュ)(沖縄県外者)(3ヵ月毎、1年毎)
分析⑤	メッシュ別立寄り者人数(1km メッシュ)(名護市宿泊者)(3ヵ月毎、1年毎)
分析⑥	メッシュ別立寄り者人数(1km メッシュ)(沖縄県外者)(3ヵ月毎、1年毎)

(3)解析期間

調査対象の抽出にあたり、位置情報の解析期間を以下のとおりとした。この期間に、実際に沖縄県北部地域に旅行した人を調査対象としている。

◇1年間:2014年1月1日(水)～2014年12月31日(水)

◇3カ月:2014年1月～3月、4月～6月、7月～9月、10月～12月

(4)調査対象

本調査における調査対象は、解析期間中の「沖縄県北部地域旅行者」である。調査対象の条件をそれぞれ下記のように設定した。

対象者についても2種類定義し、抽出している。

- ① 名護市宿泊者:名護市に自宅及び勤務地を持たず、かつ名護市内に宿泊したと判定されるユーザー。
- ② 沖縄県外者:沖縄県に自宅及び勤務地を持たないユーザー。

■ サンプル抽出の方法

区分	内容
分析①	通過判定ラインを1度でも通過し、 名護市に1度でも宿泊した人を集計対象とし、 <u>名護市に自宅または勤務地がある人を除外する</u>
分析②	通過判定ラインを1度でも通過した人を集計対象とし、 <u>沖縄県に自宅または勤務地がある人を除外する</u>
分析③	沖縄県北部の250mメッシュに1度でもStayし、 名護市に1度でも宿泊した人を集計対象とし、 <u>名護市に自宅または勤務地がある人を除外する</u>
分析④	沖縄県北部の250mメッシュに1度でもStayした人を集計対象とし、 <u>沖縄県に自宅または勤務地がある人を除外する</u>
分析⑤	沖縄県北部の1kmメッシュに1度でもStayし、 名護市に1度でも宿泊した人を集計対象とし、 <u>名護市に自宅または勤務地がある人を除外する</u>
分析⑥	沖縄県北部の1kmメッシュに1度でもStayした人を集計対象とし、 <u>沖縄県に自宅または勤務地がある人を除外する</u>

※「Stay」:15分間以上エリア内に滞在、「宿泊」:午前4時に滞在

「自宅エリア」:解析期間中に、サンプルが「夜間」に最も長く滞在したエリア

「勤務エリア」:解析期間中に、サンプルが「昼間」に最も長く滞在したエリア

(5)調査方法

本調査は、期間内に設定した通過判定ライン(27箇所)を通過した人をカウント、また、250mメッシュ、1kmメッシュに滞在した人をカウントしたものである。提示する調査結果は、対象者の数に対し、常住地の都道府県による補正値を乗じて算出したものである。よって、実際に通過した人数とは一致しない。

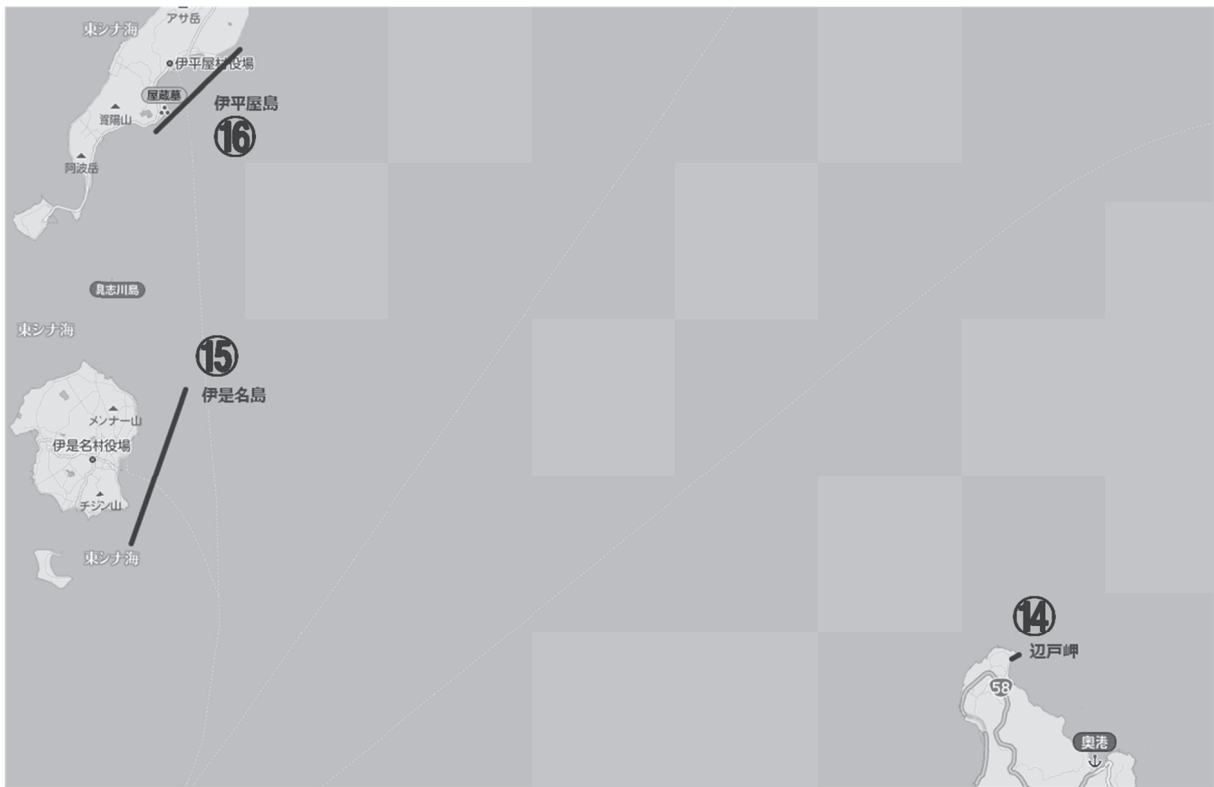
■ 設定した通過判定ライン

1. 道の駅許田	2. 名護市中心市街地	3. 名護東道路	4. 県道 84 号線
5. 国道 449 号	6. 伊江村ターミナル	7. 美ら海水族館	8. 今帰仁城跡
9. 国道 505 号	10. 古宇利島	11. 道の駅おおぎみ	12. 道の駅ゆいゆい国頭
13. 県道2号線	14. 辺戸岬	15. 伊是名島	16. 伊平屋島
17. 県道 70 号安田付近	18. 大保ダム付近	19. サンライズひがし	20. 慶佐次ヒルギ公園
21. わんさか大浦パーク	22. 道の駅ぎのざ	23. ギンバル入口付近	24. 金武町新開地
25. 石川IC	26. おんなの駅付近	27. 万座毛入口	

【位置情報(オートGPS機能)の留意点】

- ※ 時刻、測位地点は携帯電話が自ら測位したデータに依存する。このとき、測位方法はGPSのみならず、基地局測位などその端末が利用可能な手段を用いる。その測位結果を通信によってサーバーに送信し、通信できなかった場合、その点は送信されない。
- ※ 結果として、通信がつかないケース(いわゆる圏外)において測位点を得られないケース、基地局測位等による測位場所の偏りが発生する事がある。
- ※ GPS衛星により測位しているため航空機も追尾しており、航空機の通過判定ラインを設定し、その結果を除外した。

■ 通過判定ライン(辺戸岬以北)



4-3. 調査結果

(1) 北部旅行者の立ち寄り地

① 名護市宿泊者と沖縄県外者の状況

◇ 名護市宿泊者の方が、沖縄県外者に比較して国頭方面や東海岸方面への立ち寄りが多い

1kmのメッシュで見る、2014年1月1日から12月31日までの名護市宿泊者と沖縄県外者など北部旅行者の立ち寄り地は、次頁図のような状況である。

名護市宿泊者は、美ら海水族館周辺を筆頭に万座毛周辺やかりゆしビーチ周辺、名護市中心部周辺や古宇利島入口周辺などへの立ち寄りが多い。また、道の駅許田周辺、瀬底島入口周辺、今帰仁城跡周辺も立ち寄りが多いエリアである。東部では、海岸沿いに立ち寄りが分布し、大規模なリゾート施設が立地する安部地域周辺が多くなっている。

沖縄県外者は、名護市宿泊者と立ち寄りが集中するエリアについて、美ら海水族館周辺や名護市中心部周辺などと変わらないが、万座毛周辺よりも西側の富着ビーチ周辺などへの立ち寄りも多い。

全体的に見ると、名護市宿泊者の方が沖縄県外者と比較して、国頭方面や東海岸方面への立ち寄りが多い結果である。

< 次頁の図の表記について >

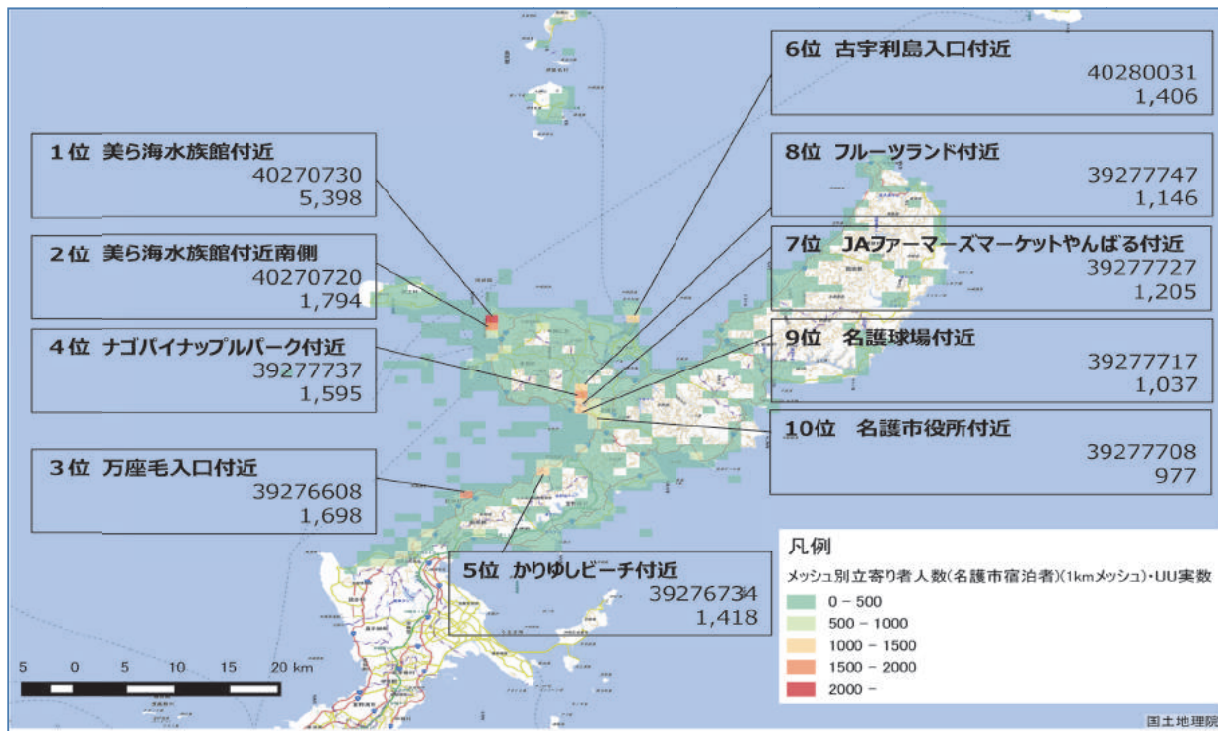
- ・数値は、UU 実数 重複を除いた実際の訪問者数
- ・図内数値等は、上段「エリア内の主要な施設」中段「エリア設定のメッシュ値」下段「UU 実数」

< 結果について >

- ・海上での数値は、ダイビングスポットへの移動時等に船上で測位されたものと考えられる

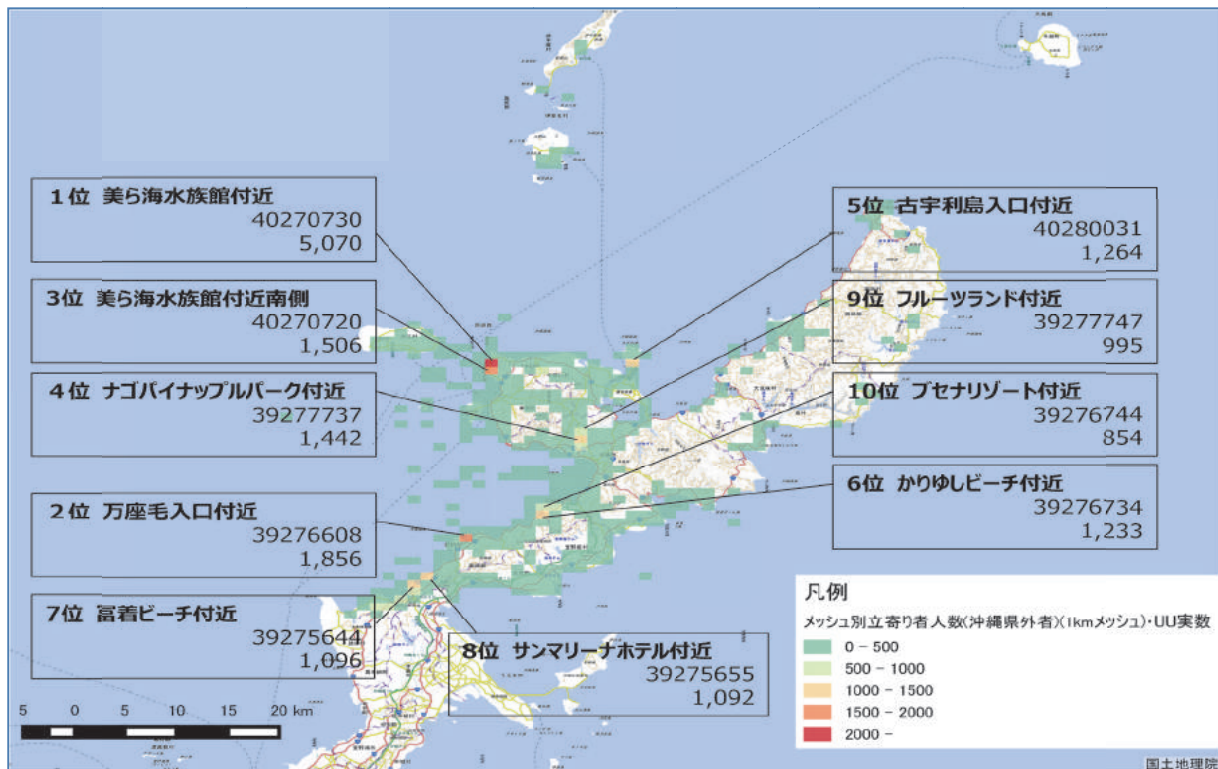
■ 北部旅行者の立ち寄り地域一年間の上位 10 箇所(名護市宿泊者)

メッシュ値	40270730	40270720	39276608	39277737	39276734	40280031	39277727	39277747	39277717	39277708
UU実数	5,398	1,749	1,698	1,595	1,418	1,406	1,205	1,146	1,037	977



■ 北部旅行者の立ち寄り地域一年間の上位 10 箇所(沖縄県外者)

メッシュ値	40270730	39276608	40270720	39277737	40280031	39276734	39275644	39275655	39277747	39276744
UU実数	5,070	1,856	1,506	1,442	1,264	1,233	1,096	1,092	995	854



「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

(2)北部旅行者の行動について

1)通過地点ランキング

① 通過地点年間ランク

◇名護市宿泊者の方が沖縄県外者より東海岸等への周遊が比較的多い

名護市宿泊者による通過地点1年間のランクは、1位が「名護市中心市街地」、2位が「道の駅許田」、3位が「国道 449 号」、4位が「石川 IC」、5位が「おんなの駅付近」となった。北部観光へ向かう主要な幹線の通過地点の通過数が多い。

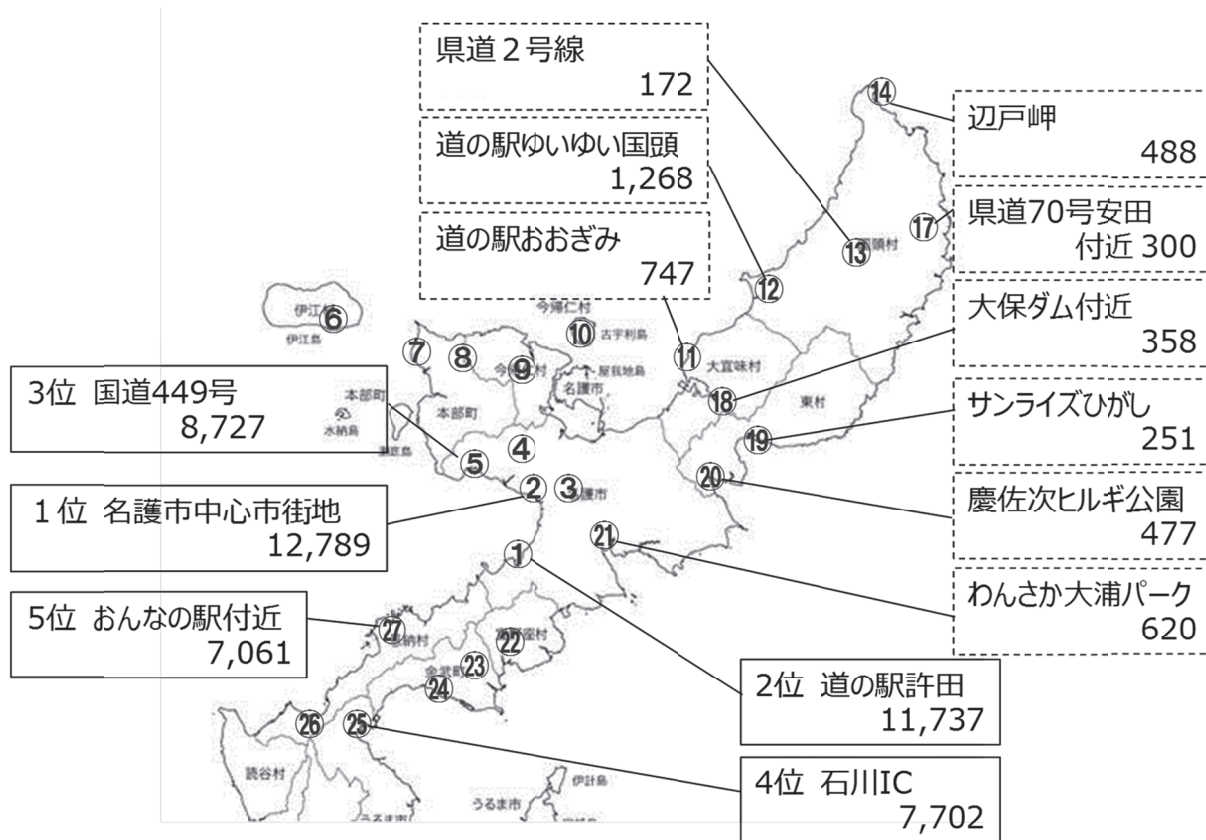
沖縄県外者による通過地点1年間のランクは、1位が「名護市中心市街地」、2位が「国道 449 号石川 IC」、3位が「道の駅許田」、4位が「おんなの駅付近」、5位が「美ら海水族館」となった。こちらも主要な幹線上の通過地点が多い結果となり、名護市宿泊者よりは、西部寄りの通過地点の通過数が多い。

また、東部地域の通過者について、名護市宿泊者の方が沖縄県外者よりも比較的多く周遊している状況がみられる。北部への観光客のうち、名護市宿泊者の方がより北方向や東海岸方向への観光を志向するものと考えられる。

<以下の図及び表について>

- ・数値は、UU 実数 重複を除いた実際の訪問者数の数値。「NA」を「1」とカウントして積算
- ・図内数値等は、上段「通過判定ライン」下段「UU 実数」

■ 北部旅行者の通過地点年間上位 5 地点と北部通過者(名護市宿泊者)



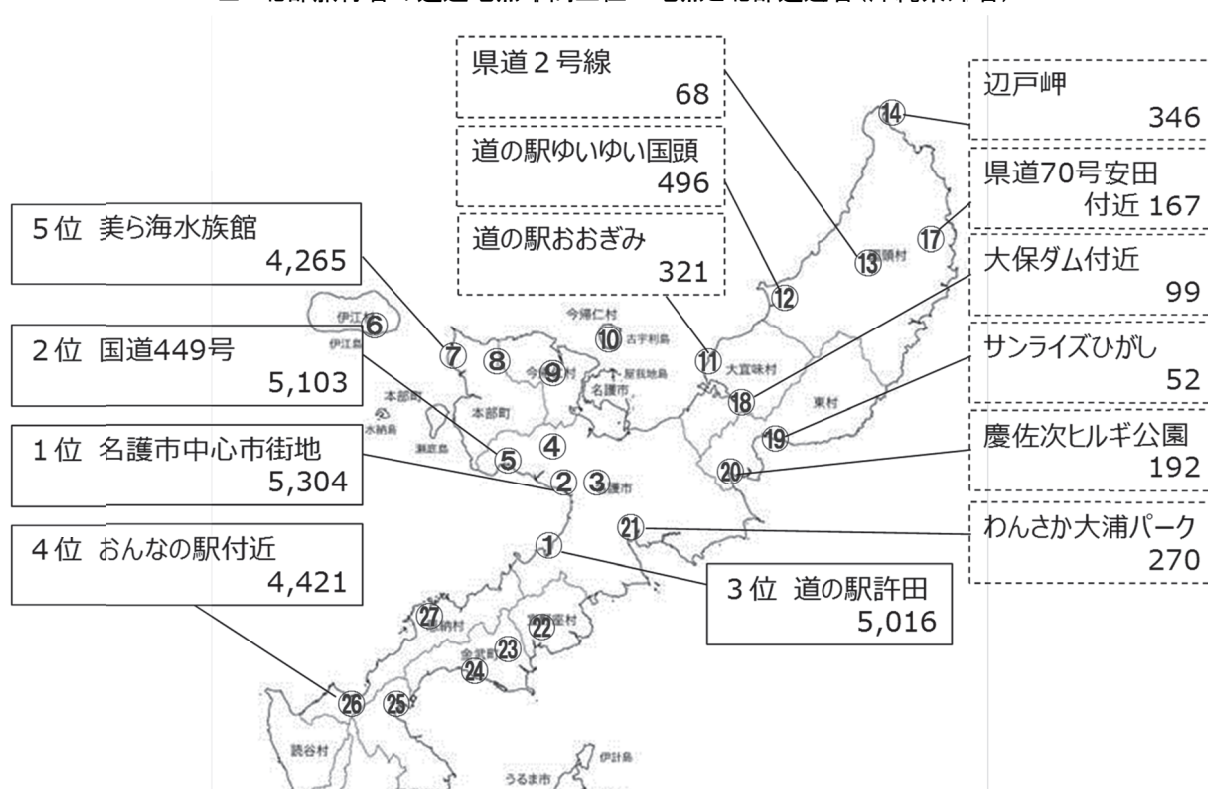
「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

■ 1年間の通過地点通過者数(名護市宿泊者)

母数	21,070
----	--------

1. 道の駅許田	11,737	11. 道の駅おおぎみ	747	21. わんさか大浦パーク	620
2. 名護市中心市街地	12,789	12. 道の駅ゆいゆい国頭	1,268	22. 道の駅ぎのざ	1,351
3. 名護東道路	4,345	13. 県道2号線	172	23. ギンバル入口付近	1,903
4. 県道84号線	6,169	14. 辺戸岬	488	24. 金武町新開地	1,380
5. 国道449号	8,727	15. 伊是名島	185	25. 石川IC	7,702
6. 伊江村ターミナル	310	16. 伊平屋島	127	26. おんなの駅付近	7,061
7. 美ら海水族館	5,333	17. 県道70号安田付近	300	27. 万座毛入口	1,472
8. 今帰仁城跡	1,224	18. 大保ダム付近	358		
9. 国道505号	2,807	19. サンライズひがし	251		
10. 古宇利島	3,228	20. 慶佐次ヒルギ公園	477		

■ 北部旅行者の通過地点年間上位5地点と北部通過者(沖縄県外者)



■ 1年間の通過地点通過者数(沖縄県外者)

母数	9,309
----	-------

1. 道の駅許田	5,016	11. 道の駅おおぎみ	321	21. わんさか大浦パーク	270
2. 名護市中心市街地	5,304	12. 道の駅ゆいゆい国頭	496	22. 道の駅ぎのざ	290
3. 名護東道路	1,528	13. 県道2号線	68	23. ギンバル入口付近	461
4. 県道84号線	3,420	14. 辺戸岬	346	24. 金武町新開地	372
5. 国道449号	5,103	15. 伊是名島	96	25. 石川IC	3,476
6. 伊江村ターミナル	117	16. 伊平屋島	78	26. おんなの駅付近	4,421
7. 美ら海水族館	4,265	17. 県道70号安田付近	167	27. 万座毛入口	1,177
8. 今帰仁城跡	943	18. 大保ダム付近	99		
9. 国道505号	1,883	19. サンライズひがし	52		
10. 古宇利島	2,687	20. 慶佐次ヒルギ公園	192		

「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

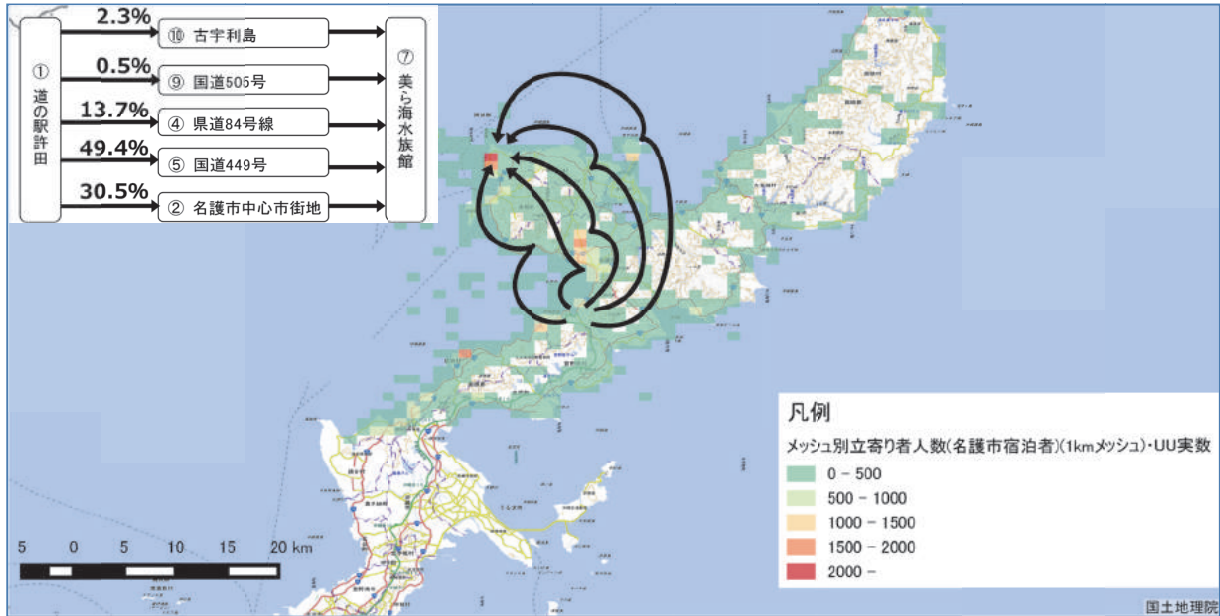
2)道の駅許田通過者の動向

① 道の駅許田から美ら海水族館

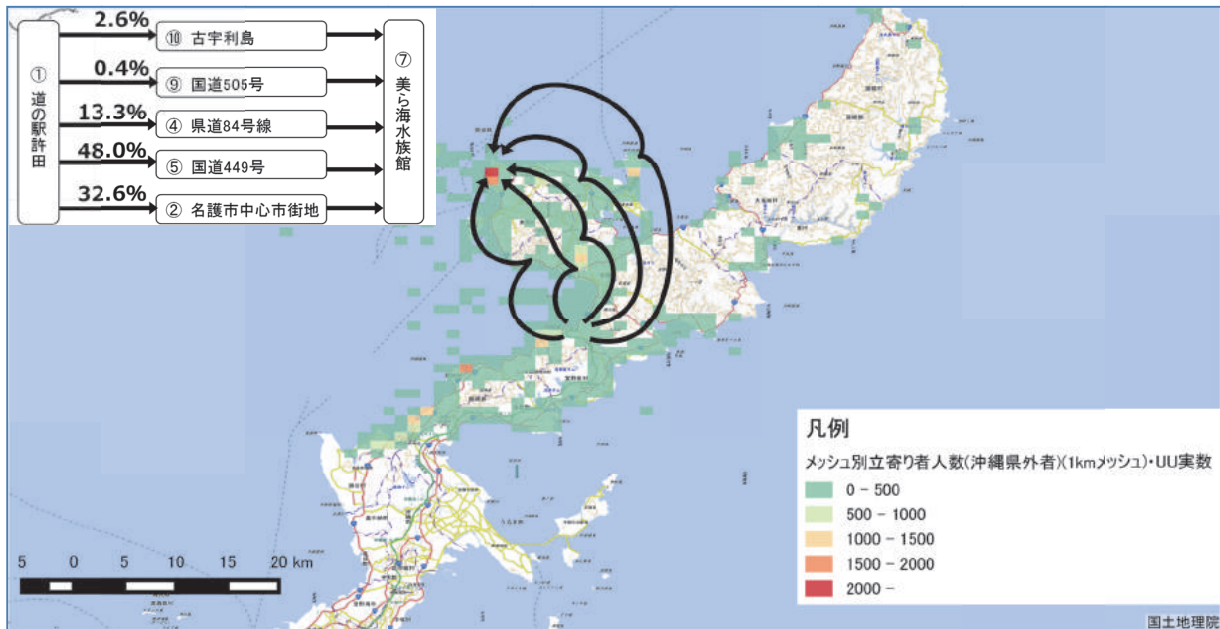
◇国道 449 号や名護市中心市街地の経由が多い

◇名護市周辺の集客施設を訪問している

■ 道の駅許田を起点とした移動における滞在数との関係(名護市宿泊者)



■ 道の駅許田を起点とした移動における滞在数との関係(沖縄県外者)



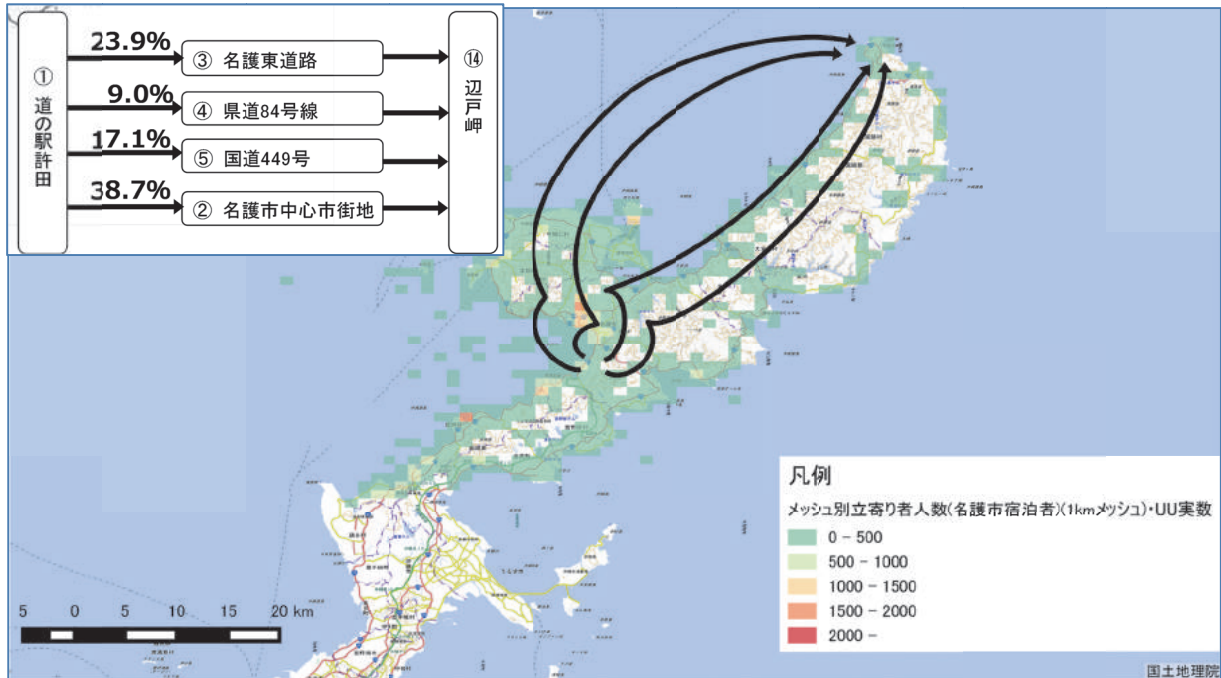
「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

② 道の駅許田から辺戸岬

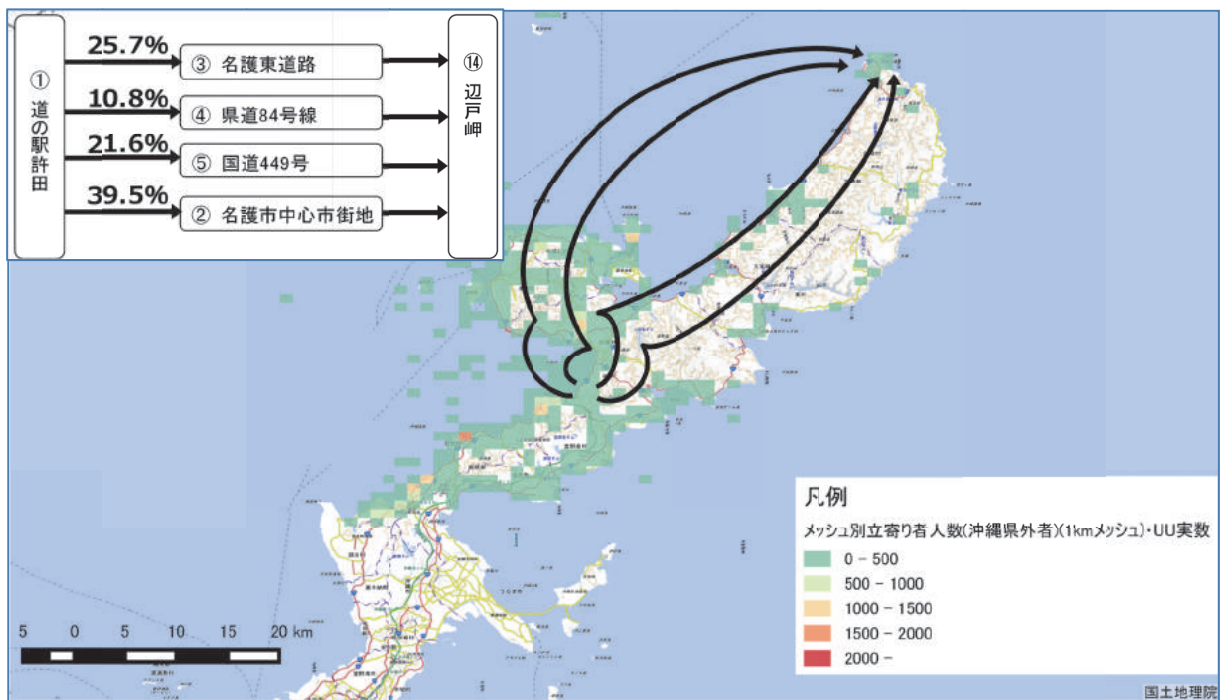
◇沖縄県外者は、名護市宿泊者よりも多くを見て回る傾向にある

◇名護市周辺の集客施設を經由している

■ 道の駅許田を起点とした移動における滞在数との関係(名護市宿泊者)



■ 道の駅許田を起点とした移動における滞在数との関係(沖縄県外者)



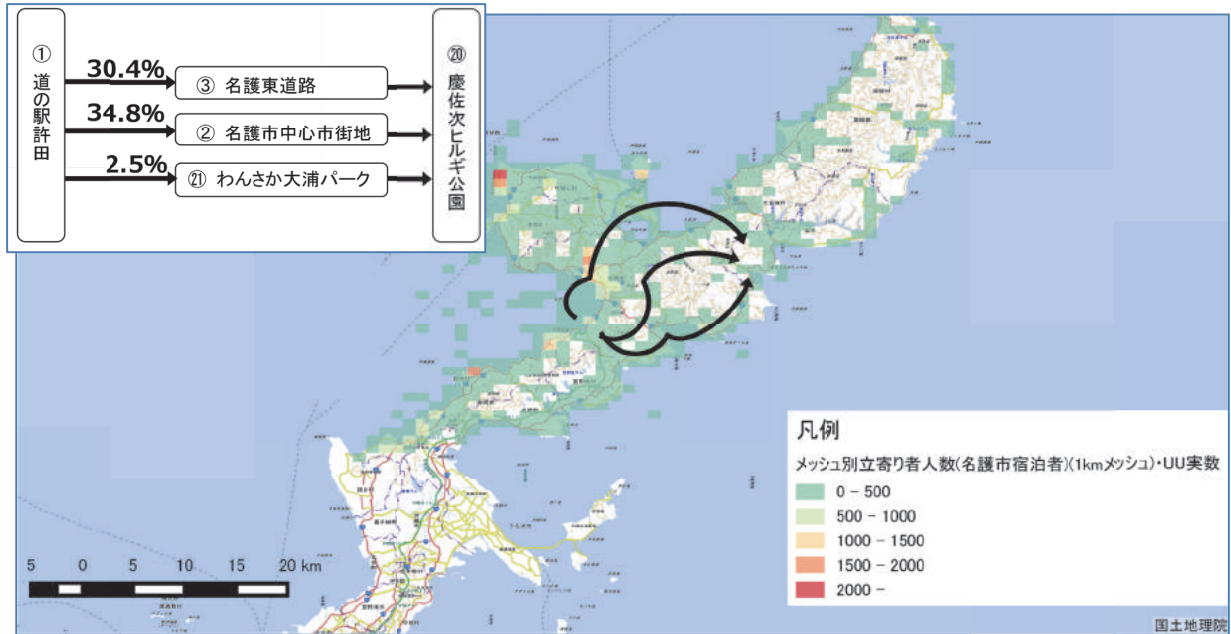
「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

③ 道の駅許田から慶佐次ヒルギ公園

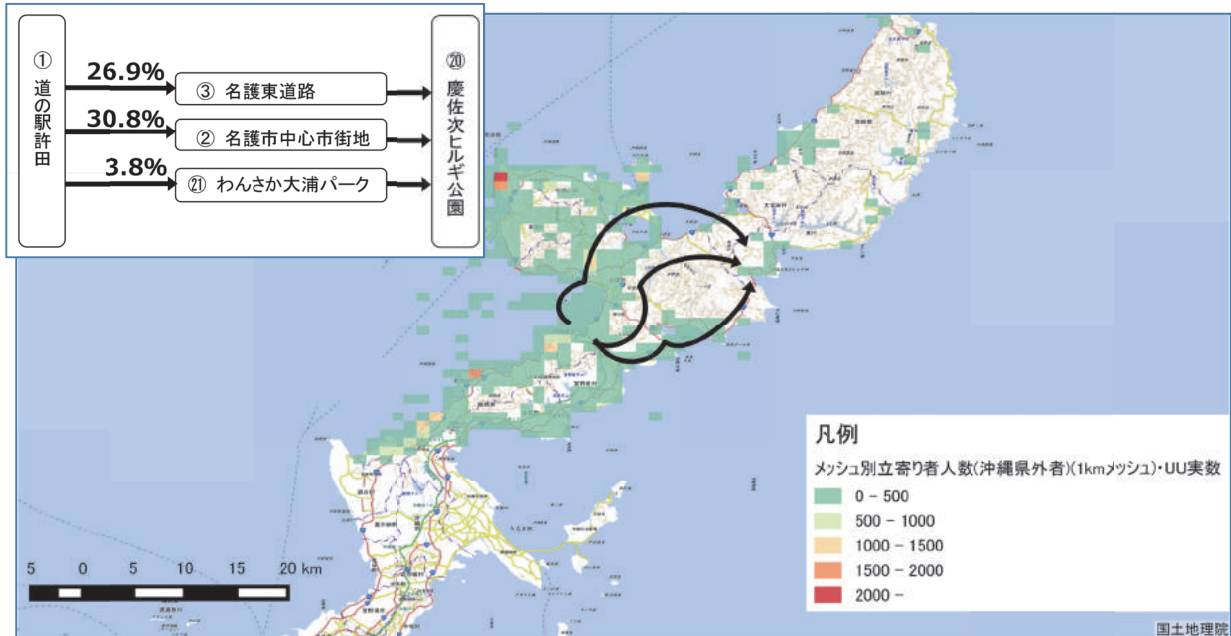
◇東海岸へは、わんさか大浦パークを回るケースは少ない

◇名護市周辺の集客施設を經由している

■ 美ら海水族館を起点とした移動における滞在数との関係(名護市宿泊者)



■ 美ら海水族館を起点とした移動における滞在数との関係(沖縄県外者)



「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

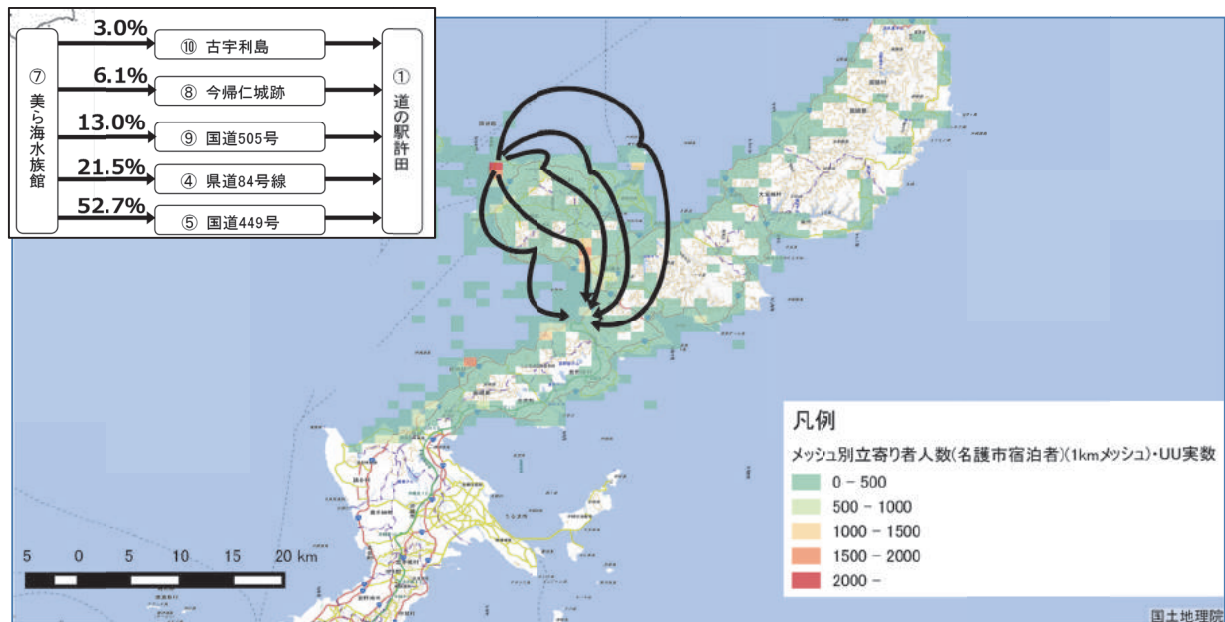
3) 美ら海水族館通過者の動向

① 美ら海水族館から道の駅許田

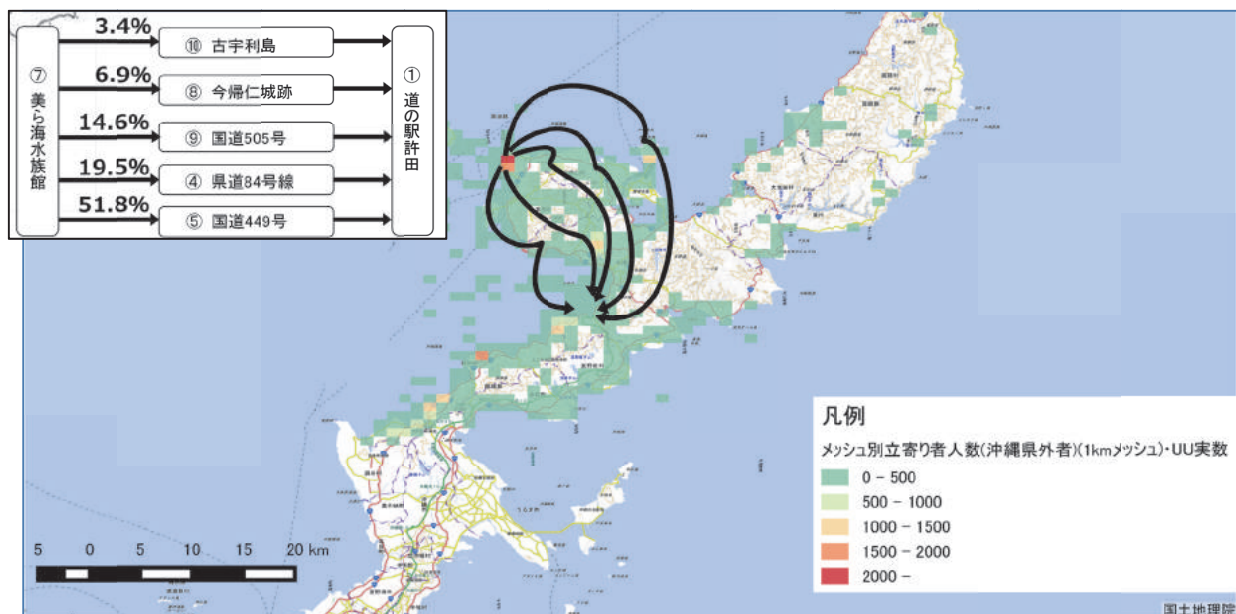
◇国道 449 号を利用する経路が5割以上である

◇美ら海水族館の来訪者は名護市周辺の集客施設を訪問している

■ 美ら海水族館を起点とした移動における滞在数との関係(名護市宿泊者)



■ 美ら海水族館を起点とした移動における滞在数との関係(沖縄県外者)



「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

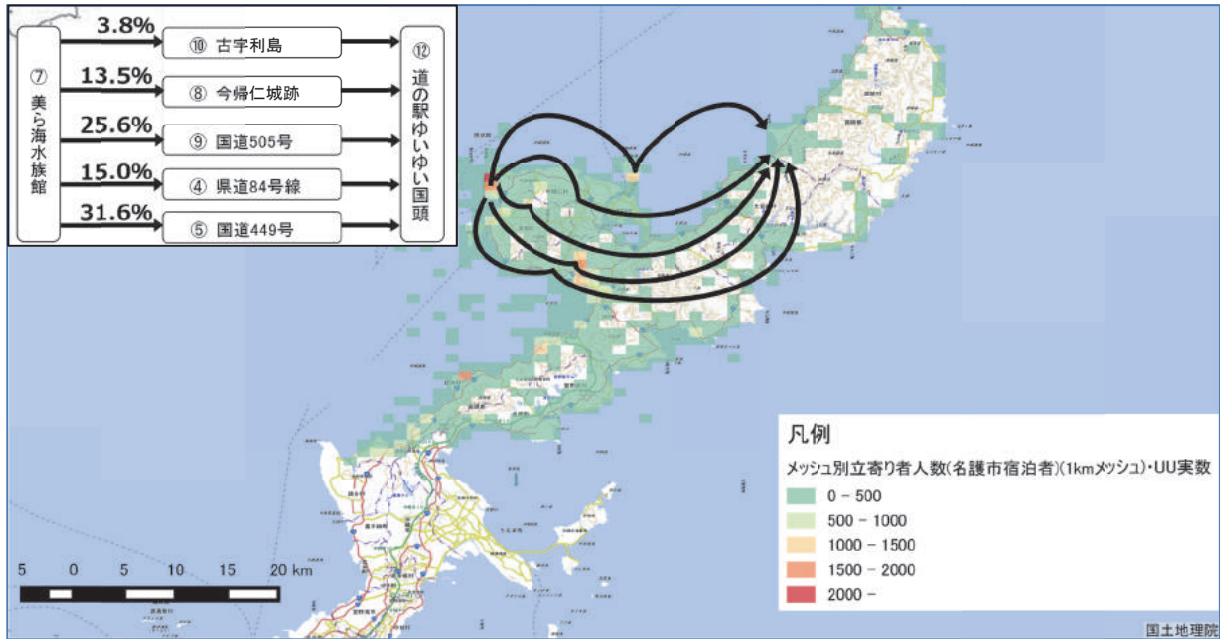
② 美ら海水族館から道の駅ゆいゆい国頭

ア 移動の状況

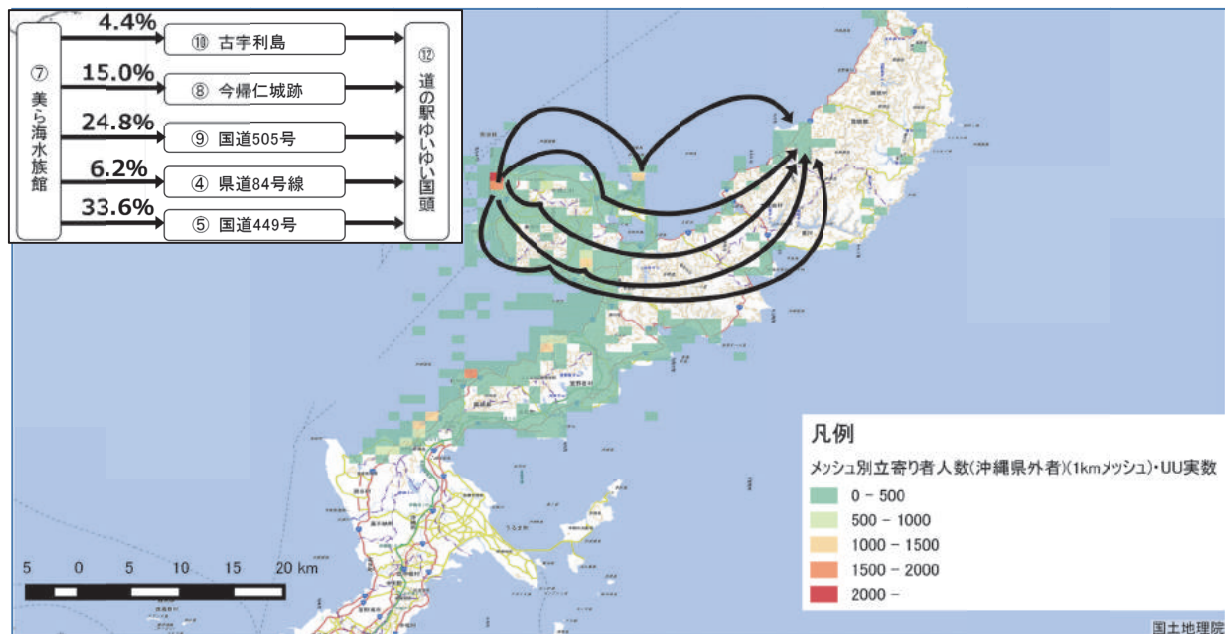
◇国道 449 号を利用する経路が多い

◇集客施設を訪問しながら目的地へ向かっている

■ 美ら海水族館を起点とした移動における滞在数との関係(名護市宿泊者)



■ 美ら海水族館を起点とした移動における滞在数との関係(沖縄県外者)



「混雑統計®」©ZENRIN DataCom CO., LTD.

4-4. 調査結果のまとめ

(1)調査結果概要

北部地域全体での通過や滞在の状況は、名護市宿泊者と沖縄県外者共に類似した様相を呈しており、通過判定の多い地点をなぞると滞在数の多いエリアに概ね重なる結果となった。意図的に設定した通過地点は、観光資源やその動線上にあり、結果的に観光客の動向が概ね想定内であったといえることができる。また、北部地域で通過や滞在の多い地域の観光資源は、観光客にとって新しい発見やついでに寄るものではなく、美ら海水族館を筆頭に観光の目的として位置づけられていると考えることができる。

【調査結果のまとめ】

- 沖縄県外者に比較して名護宿泊者の方が国頭方面や東海岸への移動や滞在箇所が多くなっており、より北部の広範囲に周遊している傾向が把握できる。
- 美ら海水族館から許田へ向かう移動パターンをみると、沖縄県外者、名護宿泊者共に 50%前後が国道 449 号を利用しており、美ら海水族館から直帰している傾向が推測できる。
- 沖縄県外者が北部や東海岸への移動及び滞在が少ないことから、旅程上北部付近での滞在がない場合、時間的制約から北部及び東海岸への観光動向が少ないと推察できる。
- 北部全体に周遊を促進するためには、名護市宿泊者、沖縄県外者共に立ち寄りの多い「道の駅許田」「美ら海水族館」での北部観光 PR を促すことが有効である。
- 美ら海水族館等、主要な観光地の他に目的がない旅行者に対し、その足で北部の他の場所に足を伸ばしてもらおう PR と共に、今回の滞在期間中には周遊する時間が無い方へは、次回の沖縄旅行で足を運んでもらうような PR をすることも必要である。

以下、特徴的な事柄を整理する。

◇山間部以外ほぼすべての地域に観光客は赴いている

滞在数のマップを見ると、山間部を除いたすべての地域に観光客が赴いている状況が分かった。数量としては、集客施設の有無などにより数値の差が顕著に出る結果であったが、現行の PR の成果として見れば、既存の観光資源への誘客効果が出ていると見ることができ、さらにはマーケットを拡大させる可能性も含むと考えることができる。

◇道の駅許田や名護市中心市街地は、北部観光の要所となっている

道の駅許田や名護市中心市街地周辺は、滞在数として抜きん出て多くはなかったが、通過数は多い。道の駅許田や名護市中心市街地は、北部への幹線である沖縄自動車道の北側の出入口近隣に位置していることもあり、北部地域への要所となっている。

調査結果は、北部観光において多くの観光客が名護市中心市街地を経由している状況を把握することができた。調査の通過ラインが面で置かれているため、「道の駅許田」などとピンポイントで効果のある施設を把握することが出来るものではなかったが、幹線沿道の集客施設すべてが効果のある拠点となりうることも見ることが出来る。

◇東海岸での通過や滞在は相対的に少ない

北部地域の東海岸での通過や滞在は、相対的には少ない結果であった。北部地域への移動経路の大部分を国道 58 号や沖縄自動車道に頼っている現在、効果的な誘導策を講じない限り、東海岸への誘客は難しいと考えられる。既存の調査を見ると沖縄県の宿泊数は3泊以上が多いが、北部地域への移動時間を勘案すると、現地での活動時間がとても限られるのが現実である。そのような旅行行程の中に東海岸の選択肢を入れていくことは、とても難しいものと考えることが出来る。このことを課題と捉え、対策を講じていくことが求められる。

(2)今後の課題

◇道の駅許田や名護市中心市街地での観光情報の「今」を伝える取組を活性化させる必要がある

北部観光を活性化させるためには、道の駅許田や名護市中心市街地の特性を活かし、PR を積極的に進めていくことが必要である。観光情報は、その多くが情報誌や WEB サイトで取得が可能であり、多くの観光客の発地での情報収集の手段となっている。一方で、観光客が旅行雑誌に載っていない情報を求めていることも事実であり、Facebook 等への積極的な情報掲載は、その表れと理解することもできる。旬な情報や貴重な情報など、「今」の情報を積極的に発信していくことが、観光客の新しい発見につながり、さらには満足度向上、リピートにつながるものである。

また、この案内により、東海岸方面への誘客を図ることも可能である。個人の観光客は、美ら海水族館までのプランまでは立てられるが、それ以外について不案内に等しい。何故なら、訪問するに確固たる価値を見いだせないでいるからである。その意志を情報提供により押してあげることは、有効な手段であるといえる。

◇観光資源や地域を目的化できるような施策を講じる必要がある

沖縄県への観光客は、2～3泊の設定の方が多い。少ない旅行行程の中で主要な観光地を巡るために、多くの観光客が西海岸を移動している。そのような中で、北部のその他の地域への誘客については、魅力ある観光資源の情報発信を行い、観光客にとってその地域に行くことが目的となるような施策を講じる必要がある。またその情報発信については、ターゲットを設定し、旅行商品の造成から販売までを行う仕組みづくりが求められている。

第5章 事業効果と今後の展開

5-1. 今年度の成果と課題

これまで平成 24 年度から 26 年度まで実施してきた内容を受け、平成 27 年度は研究会を継続し、連携体制の具体化に向けた勉強会や意見交換を重ねた。その結果、今後のやんばる地域で連携して観光に取り組んでいく組織として、「仮称やんばる観光市町村等連絡協議会」を創設することが、協議会において了解された。また、各エリア別に連携プロジェクトでは、それぞれプロジェクトチームで企画会議を重ね、モニターツアーの受入れ等について協働で取り組むことで連携に関する意識が高まっている。

情報集約発信や観光プロモーションについても、平成 27 年度からは PDCA サイクルの考え方による目標数値を設けて取り組んだ。平成 28 年度事業終了時における全体目標も暫定的に設定している。目標を達成できていない項目もあることから、課題を踏まえて平成 28 年度に取り組む。

表 H27 の事業毎の目標となる指標 ※H27 年度実績は H27 年 9 月 1 日～H28 年 3 月 15 日までの数値)

H27 の成果	目標の達成度と課題
<p>1 連携の仕組みづくり (1) 連携体制づくり ●やんばる観光連携推進研究会の開催 ・研究会を開催し、DMO の勉強会や連携体制の検討を行った。 ⇒やんばる観光市町村等連絡協議会の創設が了解された</p> <p>(2) 連携プロジェクトの創出 ●連携プロジェクト実証 ⇒各エリアでプロジェクトチームを立ち上げ連携して取り組んだ (①本部半島・伊江島エリア、②南エリア、③いいなエリア、④東海岸エリアのモニターツアー実施)</p>	<p>1 連携の仕組みづくり (1) 連携体制づくり 指標：研究会メンバーアンケート「連携が進んだと感じる」 目標：H26 年度実績 73% ⇒H27 年度目標 80% H27 年度実績 100% 課題：連絡協議会の自立運営の検証</p> <p>(2) 連携プロジェクトの創出 指標：連携体制の数 目標：H26 年度実績 1 件 ⇒H27 年度目標 4 件 H27 年度実績 4 件 課題：プロジェクトの事業化、エリア事務局の自立化</p>
<p>2 情報集約・発信 (1) 情報サイトの充実強化 ●WEB サイトの情報充実・運用拡大 ⇒デザインリニューアル、SNS と連動した運用でページビュー数の拡大を図った。</p> <p>(2) 情報拠点の充実強化 ●観光案内コーナー充実強化 ⇒利用者増加に向けコーナー内の情報充実を図った。</p> <p>●多言語対応ツール製作 ⇒多言語対応ツールとして、単語会話やマナーを盛り込んだ外国語版リーフレットを製作した。</p>	<p>2 情報集約・発信 (1) 情報サイトの充実強化 指標：WEB サイトのアクセス数/Facebook ページ「いいね」 目標①：WEB アクセス H26 年度実績 105 件/日 " H27 年度目標 300 件/日 H27 年度実績 178 件/日 目標②：Facebook 「いいね」 H26 年度実績 3,053 件 " H27 年度目標 7,000 件 H27 年度実績 9,439 件 課題：利用者数拡大に向けた市場へのアプローチ、自立運営の検証</p> <p>(2) 情報拠点の充実強化 指標：やんばる観光案内コーナー日平均利用者数 目標： H26 年度実績 300 人/日 H27 年度目標 450 人/日 H27 年度実績 334 人/日 課題：利用者数拡大に向けた市場へのアプローチ、自立運営の検証</p>

<p>3 観光プロモーション</p> <p>(1) 観光フェア等への出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発地側での観光フェア出展 <p>⇒東京スカイツリー「Beautiful NIPPON 全国観光PRコーナー」</p> <p>来場者数：4,953人/アンケート回収数：463件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタンプラリー開催 <p>⇒道の駅、直売店に加えホテル、観光施設に参加を募り30件が参加した。(12月19日～2月29日 配布数56,750枚 応募数3,358枚)</p> <p>(2) やんばるパッケージ制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ●やんばるをPRする <p>⇒やんばるをモチーフとしたデザインのトートバックを製作した。</p>	<p>3 観光プロモーション</p> <p>指標：やんばるの認知度向上のため、観光客アンケート調査で「やんばるという地名を知っていますか？」</p> <p>目標：H26年度アンケート「聞いたことはある・知らない」19%</p> <p>H27年度目標 19%以下</p> <p>H27年度実績 21% (※)</p> <p>※参考：H26にアンケートを実施した「沖縄 EXPOinTOKYO (業者対象)」が今年度は中止となった。今年度の東京スカイツリーは一般客が対象のため単純比較は困難</p> <p>課題：引き続き「やんばる」のイメージのPRを図る。</p>
<p>4 ニーズ把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光客動態調査 <p>⇒通年の観光客の動向を把握した。名護宿泊者とそれ以外の観光客の比較により、傾向の違いを把握した。</p>	<p>4 ニーズ把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光客動態調査 <p>⇒やんばる地域で観光周遊を促進するには、滞在や通過の多い「道の駅許田」や「美ら海水族館」などで情報提供を促進することが必要である。エリアによっては滞在中に誘引するか、次回に来てもらうことを促すか、情報の内容の検討が必要である。</p>

表 H28 年度終了時における全体目標

本事業の目標・周遊・滞在・消費促進

H27 の実証事業	目標となる指標																																				
<ul style="list-style-type: none"> ●北部地域各地の観光客が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ●北部地域に訪れる観光入域客の増加 <p>指標：沖縄県観光統計調査の各地の訪問率を参考に北部に訪れる観光客数を推計（目標値は暫定。沖縄県の目標値の公表に基づいて入替え）</p> <p>目標：北部各地の観光客⇒H27 年度目標 各地で増加</p> <table border="1" data-bbox="831 1366 1465 1854"> <tr> <td>・本部半島</td> <td>H26 (見込値)</td> <td>3,011,400 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H27 (目標値)</td> <td>3,129,000 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H28 (目標値)</td> <td>3,360,000 人</td> </tr> <tr> <td>・北部西海岸</td> <td>H26 (見込値)</td> <td>2,394,700 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H27 (目標値)</td> <td>2,488,300 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H28 (目標値)</td> <td>2,672,000 人</td> </tr> <tr> <td>・北部東海岸</td> <td>H26 (見込値)</td> <td>552,100 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H27 (目標値)</td> <td>573,700 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H28 (目標値)</td> <td>616,000 人</td> </tr> <tr> <td>・やんばる最北部</td> <td>H26 (見込値)</td> <td>544,900 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H27 (目標値)</td> <td>566,200 人</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>H28 (目標値)</td> <td>608,000 人</td> </tr> </table>	・本部半島	H26 (見込値)	3,011,400 人	〃	H27 (目標値)	3,129,000 人	〃	H28 (目標値)	3,360,000 人	・北部西海岸	H26 (見込値)	2,394,700 人	〃	H27 (目標値)	2,488,300 人	〃	H28 (目標値)	2,672,000 人	・北部東海岸	H26 (見込値)	552,100 人	〃	H27 (目標値)	573,700 人	〃	H28 (目標値)	616,000 人	・やんばる最北部	H26 (見込値)	544,900 人	〃	H27 (目標値)	566,200 人	〃	H28 (目標値)	608,000 人
・本部半島	H26 (見込値)	3,011,400 人																																			
〃	H27 (目標値)	3,129,000 人																																			
〃	H28 (目標値)	3,360,000 人																																			
・北部西海岸	H26 (見込値)	2,394,700 人																																			
〃	H27 (目標値)	2,488,300 人																																			
〃	H28 (目標値)	2,672,000 人																																			
・北部東海岸	H26 (見込値)	552,100 人																																			
〃	H27 (目標値)	573,700 人																																			
〃	H28 (目標値)	616,000 人																																			
・やんばる最北部	H26 (見込値)	544,900 人																																			
〃	H27 (目標値)	566,200 人																																			
〃	H28 (目標値)	608,000 人																																			

5-2. 事業の検証と継続に向けて

平成 28 年度は事業開始から 5 年目にあたり、これまでの課題を受け、最終的な成果をとりまとめ、今後の自立的な連携体制に向けた検証を行うものとする。

表 PDCAサイクルの考え方

PLAN (H24～25)	DO (H25～27)	CHECK (H27)	ACTION (H28)
1 連携の仕組みづくり ・連携体制づくり ・連携プロジェクト創出	・エリアコーディネーター配置 (H25) ・ワークショップ開催 (H25) ・研究会開催(H26～27) ・連携プロジェクト実施 (H26～27) ・連絡協議会創設 (H27)	指標：「連携が進んだ」と感じた率 目標：80%⇒H27 実績 100% 指標：エリア連携体制の数 目標：4 件⇒H27 実績 4 件 (課題) ・連絡協議会の自立化 ・連携プロジェクト商品化、事務局の自立化	目標：連携が進んだと感じた 100% 目標：エリア連携体制 5 件 ①連絡協議会の開催 ■運営収支の検証、新制度研究等 ②連携プロジェクト実証 ■プロジェクトの事業化に向けた支援
2 情報集約・発信 ・情報集約・発信の仕組みづくり ・ワンストップ窓口形成	・WEB サイト開設 (H25) ・Facebook 開設 (H26) ・やんばる観光案内コーナー開設、ガイドの配置 (H25) ・多言語対応ツール製作	指標：WEB サイトアクセス 目標：300 件/日⇒H27 実績 178 件 指標：Facebook いいね 目標：7,000 件⇒H27 実績 9,439 件 指標：観光案内コーナー利用者数 目標：450 人/日⇒H27 実績 334 人 (課題) ・WEB サイト、観光案内コーナー自立化 ・メルマガ会員等サポーター拡大	目標：WEB サイトアクセス ⇒300 件/日 目標：Facebook いいね ⇒20,000 件 目標：案内コーナー利用者数⇒450 人/日 ①情報サイト充実強化 ■自立運営の検証、サポーター拡大 ②情報拠点の充実強化 ■自立運営の検証、サポーター拡大
3 観光プロモーション ・やんばるの認知度向上 ・やんばる全体でのPR体制づくり	・やんばる全体でのフェア出展 (H25、26) ・プロモーションビデオ、ファイルバック等販促グッズの制作 (H26)	指標：やんばるの知名度 「聞いたことはある」「知らない」 目標：19%以下 ⇒H27 実績 21% (課題) ・「やんばる」のPRを継続 ・物産等と合わせたPR	目標：19%以下 ※発地側で一般客を対象とする ①農商工連携物産フェア開催 ■農商工連携やんばるイベント開催 ②観光キャラバン (民泊等) ■民泊市場拡大、連携プロジェクトPR ③インバウンド向けプロモーション ■海外市場向けフェア出展
4 ニーズ調査 ・やんばるのイメージ ・やんばるに訪れる観光客のニーズ把握	・観光客アンケート調査 (H25) ・観光客動態調査 (夏季) (H26) ・インバウンド調査 (H26) ・観光客動態調査 (通年) (H27)	(課題) ・観光客の動態調査結果をふまえた、情報発信やプロモーションが必要 ・やんばる地域における観光産業の経済効果 (経済効果を向上させるための施策の参考とする)	目標：周遊・滞在・消費拡大の施策のための参考データを得る ①地域大学と連携した経済効果分析 ■やんばる地域の観光産業に関する経済分析 ■H29 年度以降の実施計画策定

■平成 27 年度から平成 28 年度事業へ

平成 27 年度は、研究会での勉強会や、各エリアでの連携プロジェクト、情報集約・発信や観光プロモーションも、連携して実践しながら仕組みづくりを図ってきた。平成 28 年度は、これまでの仕組みについて自立のための検証を行い、29 年度からの自立運営に備えるものとする。



※ 1着地型観光：旅行者を受け入れる側の地域（着地）側が、その地域でおすすめの観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態

平成 27 年度 委員名簿

やんばる観光連携推進協議会 委員名簿

親川 敬	名護市	副市長	座長
小川 剛男	国頭村	副村長	
島袋 幸俊	大宜味村	副村長	
金城 紀昭	東村	副村長	
大城 清紀	今帰仁村	副村長	
平良 武康	本部町	副町長	
外間 毅	恩納村	副村長	
岸本 宏和	宜野座村	副村長	
池原 均	金武町	副町長	
名城 政英	伊江村	副村長	
伊礼 清	伊平屋村	副村長	
奥間 守	伊是名村	副村長	

やんばる観光連携推進研究会 委員名簿

【12 市町村役場】

當山 賢	名護市	商工観光課	課長
平川 洋一郎	〃	〃	係長
知花 靖	国頭村	企画商工観光課	課長
前田 浩也	〃	〃	係長
山城 均	大宜味村	企画観光課	課長
藤田 元也	〃	〃	係長
金城 幸人	東村	企画観光課	課長
宮田 健次	〃	〃	課長補佐
島袋 輝也	今帰仁村	経済課	課長
上原 一也	〃	〃	係長
宮城 健	本部町	商工観光課	課長
謝花 裕作	〃	〃	班長
長浜 保治	恩納村	商工観光課	課長
小波津 博美	〃	〃	係長
金城 勉	宜野座村	観光商工課	課長
新里 俊文	〃	〃	主事
安富祖 勸	金武町	産業振興課	課長
伊芸 勲	〃	〃	主幹

東江 民雄	伊江村	商工観光課	課長
島袋 裕次	〃	〃	係長
上江洲 清彦	伊平屋村	総合推進室	室長
上原 拓海	〃	〃	係長
前田 秀光	伊是名村	商工観光課	課長
東江 隆路	〃	〃	係長

【12 市町村関連団体】

比嘉 重史	名護市	公益財団法人名護市観光協会	事務局長
平良 勇	国頭村	国頭村観光物産株式会社	支配人
宮城 健隆	大宜味村	NPO 法人おおぎみまるととツーリズム協会	理事長
稲福 元子	〃	〃	事務局長
吉本 淳	東村	NPO 法人東村観光推進協議会	理事長
小田 晃久	〃	〃	事務局長
又吉 演	今帰仁村	一般社団法人今帰仁村観光協会	事務局長
嘉数 剛	本部町	一般社団法人本部町観光協会	事務局長
祖慶 良太	〃	〃	PJ リーダー
名城 一幸	恩納村	NPO 法人ふれあいネット ONNA	課長
仲間 赴人	宜野座村	一般社団法人宜野座村観光協会	事務局長
山川 宗仁	金武町	一般社団法人金武町観光協会	執行理事
古堅 幸一	伊江村	一般社団法人伊江島観光協会	会長
名嘉 律夫	伊平屋村	伊平屋島観光協会	会長
西銘 琢也	伊平屋村	伊平屋島観光協会	主任
上間 美卓	伊是名村	一般社団法人いぜな島観光協会	次長
川満 秀二	一般財団法人美ら島財団	経営企画部	部長
川添 博明	やんばる観光推進協議会		会長

【オブザーバー】

岡村 努	国土交通省	観光庁 観光地域振興部観光地域振興課	専門官
宮里 正吉	内閣府	沖縄総合事務局 運輸部	国際観光調整官
外間 一樹	沖縄県	文化観光スポーツ部 観光振興課 まちづくり調整班	班長
石川 清秀	〃	〃	主査
翁長 由佳	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	国内事業部 国内プロモーション課	課長